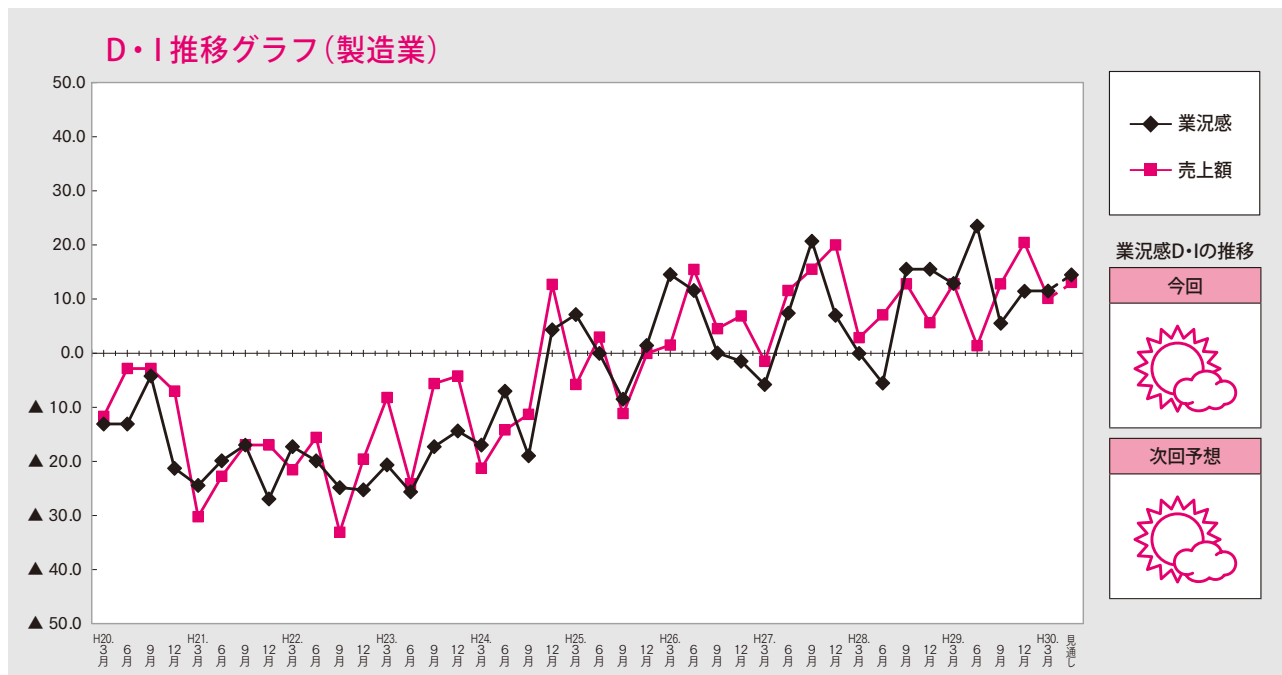


製造業

Manufacturing

業況感横ばいプラスを維持



1 今期（平成30年1－3月期）

今期の業況感はD I値11.6（前期11.6）となり、前期と同値で、プラスを維持している。しかし、改善傾向にあった売上額、収益D I値はそれぞれ悪化しており、販売価格D I値は上昇したものの仕入価格D I値も上昇。資金繰りD I値も悪化傾向にある。人手についてはやや改善したものの、不足感が大きく、設備も不足感が高まっている。

2 来期の予想（平成30年4－6月期）

来期の業況感はD I値14.5と今期より2.9ポイント改善し、プラスを維持する見通し。今期悪化した売上額、収益D Iはやや改善の見込みである。しかし、仕入価格の上昇、資金繰りの苦しさは解消されず、在庫、人手、設備の不足感は改善の見通しが立っていない。

DI値の推移（過去1年と3ヶ月後の予想）

	H29.3月期	H29.6月期	H29.9月期	H29.12月期	H30.3月期	来期見込み
業況感	12.9	23.5	5.7	11.6	11.6	14.5
売上額	12.9	1.4	12.9	20.3	10.1	13.0
収益	7.1	▲ 4.3	4.3	23.2	▲ 4.3	0.0
販売価格	11.4	7.1	2.9	5.8	14.5	13.0
仕入価格	▲ 15.7	▲ 27.1	▲ 10.0	▲ 8.7	▲ 23.2	▲ 20.3
在庫	▲ 2.9	4.3	4.3	▲ 1.4	8.7	10.1
資金繰り	2.9	0.0	▲ 4.3	▲ 13.0	▲ 23.2	▲ 18.8
人手	21.4	25.7	13.0	23.2	19.1	23.5
設備状況	13.0	12.9	8.6	7.2	18.8	17.6

業況調査メモ

本坊酒造が2016年末から南さつま市津貫でウイスキー製造を始めたのに続き、小正醸造も17年11月、日置市日吉町で製造に乗り出した。本坊酒造はもともと1949年からウイスキー造りを手がけ、現在は長野県の中央アルプス駒ヶ岳山麓で製造する「マルスウイスキー」がワールド・ウイスキー・アワード（WWA）で世界最高賞を受賞するなど、高い評価を得ている。国外で日本産ウイスキーは評判で、鹿児島空港の免税店では国内大手メーカーの製品が好調な売れ行きだ。焼酎造りで培われた蒸留技術と名水を生かし、高価格商品のウイスキー製造が県内で進むことを望む。